

日本YMCA基本原則

私たちは日本のYMCAは、
イエス・キリストにおいて示された
愛と奉仕の生き方に学びつつ
世界のYMCAとのつながりのなかで、
次の使命を担います。

私たちは、
すべての人びとが生涯をとおして
全人的に成長することを願い、
すべてのいのちを
かけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、
一人ひとりの人権を守り、
正義と公正を求め、
喜びを共にし痛みを分かちあう
社会をめざします。

私たちは、
アジア・太平洋地域の人びとへの
歴史的責任を認識しつつ、
世界の人びとと共に
平和の実現に努めます。

2014年3月1日発行(毎月1日発行)
昭和22年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円(外税)(送料60円)
発行/公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7
TEL: 03-5367-6640 FAX: 03-5367-6641
URL: <http://www.ymcajapan.org/>
発行人/島田 茂 編集人/山根 一敏
印刷/あかつき印刷株式会社

いつか 本当の笑顔に

写真家
高橋美香



パレスチナで取材を続ける高橋さん(中央)、分譲壁と向き合うビリン村の親子と、寝食を共にする高橋さんのもう一つの「家族」

2011年初頭、パレスチナの取材をしているさなかにエジプトで「革命」が起き、帰国するために搭乗予定だったエジプトから日本へのフライトが無期限に延期されました。3月、ようやく振り替えのフライトで他国を経由して帰国したところ

に東日本大震災が起こりました。パレスチナ、アフガニスタン、エジプト等、他国の困難な日常に身を置く人びとを追い続けてきた私は、この時、被災地の方々の姿がパレスチナやアフガニスタンの人びとの姿と重なり、被災された方々のお役に立ちたいと行き先を探したところ、受け入れてくださったのが盛岡YMCA宮古ボランティアセンターでした。まだ宮古の町中には瓦礫が残るゴールデンウィークのことでした。

それからの約3年間、とにかく可能な限り宮古に通い続けました。最初の数ヶ月は、写真家として何が出来るかを考える余裕はなく、瓦礫の撤去、ヘド口除去や清掃、半壊状態の家の天井や床、壁はがし等、目の前のなすべきことをこなすだけで精一杯の日々でした。

夏を迎えたころから、少しずつ、ボランティアの仕事も仮設住宅を訪問しての炊き出しや交流の場づくりといったものへとシフトし始めました。

そんなころ、ある仮設住宅で日頃からよく言葉を交わしていた方から「美香ちゃんはカメラマンなんだってね。震災以来、写真を撮ろうなんて考

える余裕もなかったけれど、津波で何もかも全部流されて一枚も写真がないの。今日は写真を撮ってもらいたいわ」と声を掛けていただきました。その一枚のシャッターを切ったときの情景は、生涯忘れることはありません。後日、その写真を届けるととても喜んでくださいました。そのころから、この町の復興への道のりとその中で生きる方々の様子を記録すること、一枚の写真を通じてつながりを深めていくこと等、写真家として自分にできることを意識し始めました。

2012年には、ボランティアセンターや地元の方々の多大なるご尽力のもとに、宮古と田野畑で写真展「パレスチナ・そこにある日常」を開催しました。そこで「自分達が震災に遭って初めて、他国の困難な状況の中で生きる人びとに思いを寄せることができた」という言葉をいただきました。紛争や戦乱と自然災害とは、まったく状況は異なりますが、不条理にも命や大切なものを一瞬にして奪われるということにおいては変わりありません。

宮古をはじめとする震災の被災地は、まだまだ復興まで遠い道のりです。被災されたすべての方々が、いつか本当に笑顔を取り戻される日まで、思いを寄せ続けることを大切に皆さんと一緒にできることを探していきたいと思います。

ラポール

相手と向き合って
心を合わせていくこと。
(仏語:親和・共感的関係の意)

神様が与えてくれる、
変われる強さ

聖書の神様はインマヌエルの神様といわれています。インマヌエルとは、ヘブライ語のインマヌ(われらと共に)とエル(神)を合わせた言葉で、「どのような時にも私達と共にいてくださる」という意味になります。では、この神様が私達と共にいてくださるその恵みとは、果たして何でしょうか。さまざまなことが考えられますが、私はそれには、「変われる強さ」を私達に与えてくれるということがあると思っています。

ここで私自身のことをお話させていただけますと、私は幼いころから強迫神経症を患い、高校時代にはほとんど学校に通えなくなりました。出席日数ぎりぎり卒業はしましたが、その後3年間、精神科に通いながら自宅での療養生活を余儀なくされたのです。しかし、その中で私はキリスト教に出会い、教会に通うようになり、牧師になるという夢を与えられて、闘病生活を神様に支えていただきました。大学に入学しても、精神的に不安定だった私は、人前に出ると過呼吸発作を起こすこともあり、その度に自分のことを情けなく思う日々が続きましたが、それでも神様に支えられながら病院に通い、自分と向き合い続

ける中で、こうした弱さや欠けを一つずつ乗り越えていくことができました。

人は皆、何がしかの弱さと欠けを抱えながら、これを乗り越えるべく生きています。私は思います。思えば、イエスの弟子達もまた、反逆者のぬれぎぬを着せられたイエスを見捨てて逃げてしまう等、弱さと欠けにあふれた人びとでした。でも、彼等は復活のイエスに出会い、決して人をお見捨てにならない神様の愛に出会って変えられていったのです。こうしたイエスの弟子達の姿は、神様が共にいてくださるところでは、その愛のもと、弱さと欠けを乗り越えて自らが「変わっていく力」が与えられるのだということを私達に教えてくれているのではないのでしょうか。

私は今も、いろいろな弱さと欠けを抱えながら生きています。それでも、それらを数え上げて、自己嫌悪やコンプレックスに苛まれる生き方をするのではなく、どのような時にも私達と共にいて、私達を愛し支えてくださる神様のもとで、力を与えられ、一緒に弱さと欠けを乗り越えていく、そのような生き方を選び取っていきたく思います。

日本キリスト教団
東京府中教会
北村 智史

YMCA今後の取り組み



YMCAでは東日本大震災発生直後から被災地での支援活動を開始しました。復興までの長い道のりを被災した人びとと共に歩むため、「YMCAビッグハートプロジェクト」として、岩手県宮古市と宮城県仙台市・石巻市・女川町・南三陸町・東松島市・山元町の津波被災地、福島県を中心とした放射能被災地、そして避難を余儀なくされている人びとが暮らす全国各地で活動を継続していきます。これらも引き続きご支援をお願いいたします。

盛岡YMCA 宮古ボランティアセンター

- ▶小学生を対象にした野外活動「アドベンチャークラブ」を継続し、地域の中学生や高校生のボランティア活動にも力を入れます。
- ▶仮設住宅に暮らす方々への支援を、被災直後から共に取り組んでいる登山家ボランティアの方々を中心に、引き続き県内外にボランティアを呼びかけ継続していきます。
- ▶地元NPOとも連携しながら、野外活動等のYMCAプログラムの息の長い継続を目指します。

YMCA石巻支援センター

- ▶石巻市、女川町での「子どもあそび場」「夏休み学習支援」等、大学生等のボランティアを中心に継続します。
- ▶石巻市の小学校との関係を維持して、夏休みのプール指導等、学校単位での協力を継続します。
- ▶仮設住宅を定期的に訪問し、YMCA歌の広場による高齢者の支援を継続します。

仙台YMCA 東日本大震災支援対策室

- ▶仙台YMCAで実施しているプログラムを活用しながら、子ども達にサッカーやキャンプ等のプログラムを提供します。
- ▶ユースと中学生を中心に仮設住宅支援を継続し、ユースリーダーシップ育成と「仮設後」のボランティア活動へとつなげます。
- ▶全国から訪れるボランティアの方で、仙台市・南三陸町・東松島市・山元町での支援活動を継続します。

放射能による被災地・広域避難者支援

- ▶福島県郡山市や他地域で、ボランティアと共に子ども達のびのびと遊べる環境を定期的に提供します。
- ▶全国にあるYMCA野外施設等を中心に、子ども達やその家族を対象にしたリフレッシュ・キャンプを実施、継続します。
- ▶全国各地で避難生活または定住に向けて生活する人びとの支援を、地域の状況やニーズに応じながら継続します。



岩手県立宮古商業高等学校2年 古館 菜緒さん

震災当時、通っていた宮古第二中学校の体育館が避難所となり、そこで初めてボランティアを経験しました。高校ではボランティア活動を行う同好会に所属し、YMCAとも出合いました。これまでに被災児童を対象とする定例野外活動「アドベンチャークラブ」や地元の復興祭等に参加、これからはリーダーとしての活動を続けていきます。今は学校の友達と一緒にいて、笑っている時間が一番幸せ。志と故郷への思いを分かち合う友達存在は、何よりも励みになります。

宮古市立宮古小学校2年 古里 和弥くん

「アドベンチャークラブ」に参加しています。「アドベンチャークラブ」では、学年や学校の違うお友達と毎回いろいろなことをして遊びます。最近、ヤマメを見に川へ出かけて川遊びをしました。リーダーのお兄さん・お姉さんもいつも一緒に遊んでくれます。「おとうさんリーダー」(大学生リーダーのキャンパネーム)とは、特に仲が良いです。僕は雪遊びが好きなので、冬の活動を楽しんでいます。

岩手県立宮古商業高等学校2年 扇居 瑞希さん

リーダーになったきっかけは、中学生の時に参加した震災後のフレンドシップスキーキャンプでした。そこで出会った「ごだまリーダー」は、キャンパー一人ひとりのことをよく見ていて、私ともきちんと向き合ってくれました。こんなお姉さんになりたい、心からそう思いました。私は、宮古の風景が好き。人が好き。震災では慣れ親しんだ場所をたくさん失いましたが、時間の経過と共に、前を向かなければ、復興の一翼を担わなければ、という気持ちは強くなっています。夢は、地元で誰かを支える看護士になることです。

下記のウェブサイトでは、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターの日々の活動の様子を紹介しています。
<http://morikaymca-miyako.blogspot.jp/>

この不安を誰かと分かち合いたい

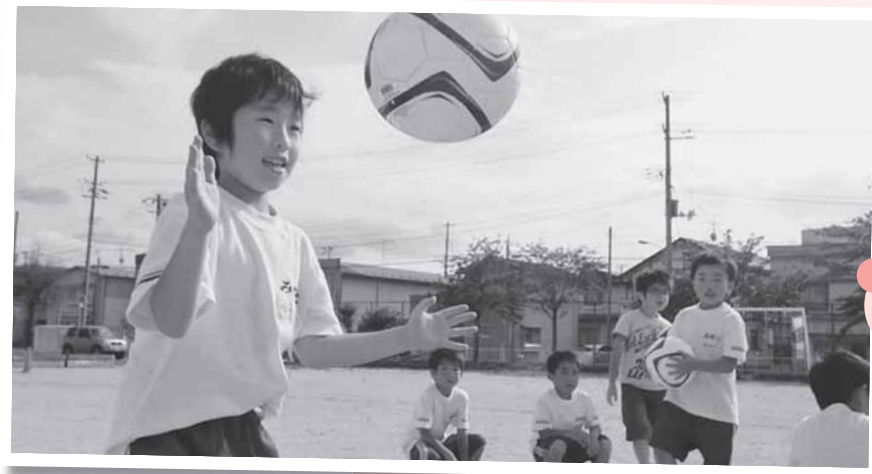


つながろう!放射能から避難したママネット@東京代表 増子 理香さん

2011年5月に福島県三春町から娘と二人、東京に避難してきました。自治体も避難希望者の対応に躊躇している時期で、避難先の部屋は自らネットで探し、夫や義理の父母の理解を得られぬまま、それでもわが子を守りたい一心で決断し、上京しました。夫にも一緒に避難してほしい。当初はそう願いましたが、新天地で苦しい経済状況にある避難一家の現実にも触れ、何が最良の選択なのか、判断できずにいます。

いずれ折り合いをつけるべき時期も来るでしょう。将来への不安は尽きず、いっそう思考停止してしまいたいというのが本音です。自分と同じように母子避難をして、悩みや不安を抱えるママ達と話をしたい、つながりたい。そんなシンプルで切実な願いから「つながろう!放射能から避難したママネット@東京」を立ち上げ、今日まで歩んできました。

YMCAとの出会いは、御殿場市にある国際青少年センター東山荘で実施された被災者のためのリフレッシュキャンプです。当初は、福島県在住者が対象でしたが、自分達の状況を説明し相談したところ、快く受け入れていただきました。避難母子約25人で参加し、子ども達はリーダーと一緒に思い切り自然の中で遊び、母親達はテーブルを囲んで涙ながらに語り合いました。YMCAは置き去りにされた人のためにある。そして、支援の波が弱まった時こそ私達の出番。そう話して下さったスタッフの言葉が、今まさに体感されていると感じます。



盛岡YMCA宮古ボランティアセンターでは、コミュニティ支援活動の一環として、仮設住宅や地域の集会所で年末年始に恒例の餅つきイベントを開催。会場設営から餅を切り分ける作業に至るまで、地域の方々と一緒に、散歩中の老夫婦や部活動帰りの中学生もその輪に加わる

リフレッシュ、そして涙



東松島市野蒜地区在住 福田 とみ子さん

昨年12月に家を新築し、一家6人で2年半暮らした仮設住宅から引っ越ししました。津波で自宅が浸水し、避難所で過ごすこと3カ月。ようやく入居した仮設住宅でしたが、2年半の生活が限界でした。夏は暑く、冬は寒い。天井にまでできる結露やカビに悩まされました。「くぎ打ち禁止」「棚付け禁止」等の制限も多く、配膳台もない小さな台所で家族6人分の食事を毎日作るのもストレスでした。気が付けば私は難聴と顔面神経症を患っていました。

だからこそ、YMCAのような支援は本当にうれしく思いました。夏と冬に一家で参加したファミリーキャンプでは、身も心もリフレッシュできました。岩手県安比高原での自然散策やレクリエーション、イワナのつかみ取り等、大人達も時間を忘れて楽しむことができました。孫達がリーダーと作ってくれたカレーライスとイワナの塩振り焼きは、涙が出るほどおいしかった。

津波の恐怖は想像を絶するものです。近くに住んでいても、家族全員無事だった人もいれば、命を落とした人もいます。自宅は約1メートル浸水しましたが、家のすぐそばを走る線路の反対側の家々はすべてなぎ倒されました。生きるか死ぬかは紙一重。あの日に負った傷の深さや形はその人その人で違います。高台を築くには最低でもあと4年。すべての人が「普通の暮らし」を取り戻すまでには時間がかかります。

仙台と宮古では、スポーツを通じて子ども達を応援。サッカーという競技を楽しみながら、コミュニケーション(言葉や掛け声、信頼関係を築く、相手のことを思いやる)力を身に付け、フェアプレー精神や人とのつながりを大切にする心を育む

“被災地の人びとと共に” この思いはこれからも —YMCA東日本大震災復興支援活動3年—

未曾有の大震災から3年がたちました。ようやく一歩を踏み出した人、笑顔の中に新しい力をみせる子ども達、現在もなお仮設住宅での生活や避難生活を余儀なくされている人……。被災された方々の思いや置かれている環境はさまざまですが、多くの人が震災によって大きく人生を変えられ、今も困難に立ち向かっています。YMCAが被災地に設けた3つの支援拠点(宮古・石巻・仙台)や放射能による被災地・広域避難者支援活動を通じて出合った被災者の方々にお話を伺いました。

失ったものもある、けれども



石巻市津波第一仮設団地在住 西村 富子さん

結婚して石巻に住んで57年、買い求めそろえた物すべてを津波に流されなくなりました。幸いにも3月11日は孫の結婚式の前日で上京していたため、家族全員命だけは助かりました。しばらく千葉県松戸市にある妹宅に身を寄せ、石巻に戻ったのは震災から5カ月後のこと。何も見えないうち、知らないうちに、自分の全財産を失う日が来るとは夢にも思っていませんでした。

震災から3年。否定の言葉をできる限り使わず、心まで貧しくはならず、いよいよ、物ではなく心の財産を増やしていこうと歩んできました。現在は仮設団地で生まれて初めての一人暮らしをしています。長男家族からは、新しい場所に新築した一軒家への同居の申し出がありました。近くに友達もおらず私には不便な場所です。断りました。

仮設団地にある集会所で定期的に開催されるYMCAの支援プログラムには、ほぼ毎回参加をしています。演奏会に合わせてみんなで童謡や唱歌を歌う「歌の広場」や、若い学生ボランティアによるレクリエーションプログラムでは、心が和み、笑顔になっている自分にいつも気づきます。新しいお友達もたくさんできました。

「命が無事で良かった」とこれまで声を掛けられ続けてきましたが、喪失感の拭き切れません。ここで暮らしながら、元の場所にはまだ自宅があるのではないかと錯覚してしまうことも……。すべてを受け入れるには時間がかかります。一瞬のうちに、あまりにもたくさんのことが変わってしまったのですから。

のびのびできる幸せ



FC南三陸監督/南三陸町役場勤務 阿部 幸人さん

震災から約半年後、FC南三陸(小学生サッカースポーツ少年団)の活動を再開しました。学校も公園も津波の被害に遭い、町中が瓦礫だらけ。支援物資はたくさん寄せられましたが、サッカーボールが届いても、それを有効に使う場所もなく、子ども達は時間を持て余していました。本当はもっと早くに活動を再開させたかったのですが、日頃の練習場所であった南三陸町立伊里前小学校の校庭は、震災直後は避難者の駐車場となり、間もなく仮設住宅の建設地になりました。

現在、FC南三陸の子ども達は仮設住宅の建つ小学校の校庭の残りのスペース(元の半分以下)を使ってサッカーの練習をしています。仙台YMCAから招待を受け、参加した「チャリティサッカーDAY」(2011年11月)や「サッカーフェスティバル」(2013年6月)では、広いグラウンドに目を輝かせ、力いっぱいボールを蹴る子ども達の姿がありました。サッカーはもちろん、南三陸の自然の恵みを受けて育った子ども達は、水遊びも大好きです。けれど、近隣の海水浴場にはいまだに瓦礫が残り、海で行方不明になったままの人も大勢います。子ども達が笑顔で力いっぱい活動できる機会をもっと増やしてあげたい、そう願ってやみません。

子ども達が安心して



石巻市立石巻小学校校長 鈴木 則男さん

通常通りの学校生活を保障してあげることが、私達にできる子ども達への一番の支援。そう考え、震災から今日まで全職員一丸となって突き進んできました。

石巻小学校は津波で校舎の1階が浸水したものの、犠牲になった児童数はゼロ。それでも、親族を失ったり、物的なダメージを受けた家庭は数えきれません。旧北上川沿岸地区にあった4分の1の児童宅が、全壊または大規模半壊という津波被害に遭いました。仕事の再建や生活に追われ、必死になってたかっている親御さん達のもとで、子ども達は家庭の事情をすべて背負って生きています。「こっちは向いて」と心の中で叫び続けている子どもも少なくありません。

そんな子ども達一人ひとりと、YMCAのリーダーのお兄さんお姉さんはしっかりと向き合ってくれました。一人ひとりの顔と名前はもちろん、その背景にあるものや、家庭環境まで把握するリーダーもいます。きちんと目を見て、繰り返し名前を呼んでもらえることが、どれだけ子ども達の励みになっているのか。プール指導やレクリエーション、学習支援等、子ども達は毎日の活動をとても楽しんでいます。子ども達の目標に立って寄り添ってくれる誰かの存在こそ、今の彼等にとって一番必要なものだと感じます。



YMCA石巻支援センターで被災地の仮設住宅や高齢者施設を中心に開催している「歌の広場」。演奏会に合わせて童謡や唱歌を皆で声を出して歌う。プログラムを行うこと自体が、仮設住宅の住民コミュニティ形成の役割を果たすことを願って

2013年度日本YMCAユースボランティア認証者

今年度は22YMCAから574人が認証、累計14,158人となりました。(1994年から認証制度開始)



YMCA ボランティア の定義

YMCAのボランティアとは、日本YMCA基本原則に示されている使命の実現のために、YMCAの行うさまざまな活動や組織の運営、また、YMCAが他団体と協働して行う諸活動に、①自らの自由な意志によって(自発性)、②主体的に、責任をもって参加し(主体性、責任性)、③金銭や名誉などの報いを目的とせず(無償性)、④人びとや社会のために働き(利他性、社会性)、⑤人びとと痛みや喜びを分かち合い(相互性)、⑥継続的に(継続性)、よることで自らの時間や労力、知識や能力、金銭などを提供する者をいう。

北海道YMCA 柴野 由利雄 源田 隆太郎 木戸口 絵梨 山本 季里香 林 将弘 中嶋 貴典 西岡 良洋 相神 慎之介 小林 美由季 小田村 友里絵 義達 聖子 仙台YMCA 千田 飛鳥 角田 敏樹 越野 一樹 千葉 悠加 斎藤 理紗都 窪田 夏帆 久松 史奈 河本 英悟 津幡 大輔 高橋 幸稔 石黒 弘樹 佐藤 華南 速藤 英英 阿部 晋士 佐々木 千絵美 石郷岡 千晶 中島 日向子 とちぎYMCA 山口 閑 鈴木 侑奈 若瀨 香里 野澤 典明 松本 円 泉井 あかね 秋山 直輝 松本 ゆい 竹田 明穂 千葉YMCA 岡野 隆香 佐藤 香奈 伊藤 紗希 杉山 宥介 鈴木 沙織莉 川口 貴大 丸山 夢摘 降旗 明 中田 佳恵 埼玉YMCA 坂本 雅 横田 彩佳 田原 聡 松尾 わかな	長岡 すみか 小林 桃佳 遠藤 隼 南谷 竜太 関口 恵介 岡部 凌 松山 ゆりこ 堂前 征孝 安井 智恵美 三森 秋穂 相野 瑛里奈 七戸 和成 岩見 咲 東京YMCA 平澤 結衣 松倉 知世 須藤 大貴 倉友 幹 小森 菜 渡嘉敷 太海 荒井 悠亮 近澤 悠希 鳥海 航希 高橋 侑希 廣田 遥 廣田 静 近藤 由佳 岡部 泉奈 高萩 慶太 小磯 明香 山口 将 高橋 佳衣 益川 実季 清水 綾乃 中村 まどか 國枝 知奈 高松 和人 田中 あずさ 稲森 玲奈 山本 真央 浜田 千穂 須田 玲菜 荒川 美季 横浜YMCA 村端 友花 尾上 菜理 安原 元樹 北川 政憲 中田 豊田 豊田 誠 上野 遙奈 山本 曾我辺 村上 壯大 林 彩智	松本 聖羅 松本 未希 原田 征至 日井 千尋 大竹 珠央 奥島 嵩弥 木内 あゆみ 田嶋 優希 松村 遥 矢野 祐亮 川上 真央 所 雄介 増田 彰 谷保 文彬 太田 果穂 星 麟太郎 小鷹 眞珠 佐々木 美穂 佐藤 笑里 小栗 琢磨 石塚 雄介 小塚 大久保 待鳥 樹 辻 はるか 白見 拓磨 海瀬 ひとみ 広武 真季 山口 真衣 江口 裕 服部 祐希 皆越 かのこ 高木 まり 津津 玲奈 前田 葉 渡辺 祐介 盛田 朋美 田中 優 相原 亜斗夢 松本 真子 寺田 麗未 高橋 愛 尾花 さき 高津 和友 藤田 真央 内田 康理奈 加納 駿 福田 涼馬 新田 瑞佳 松田 理沙 山崎 美空 中村 絵里花 中井 優衣 中山 良太 吉田 愛	奈摘美 聖羅 未希 征至 千尋 珠央 嵩弥 あゆみ 優希 遥 祐亮 真央 雄介 彰 文彬 果穂 麟太郎 眞珠 美穂 笑里 琢磨 雄介 大久保 美穂希 樹 はるか 拓磨 ひとみ 真季 真衣 裕 祐希 かのこ まり 玲奈 葉 祐介 朋美 優 亜斗夢 真子 麗未 愛 さき 和友 真央 康理奈 駿 涼馬 瑞佳 理沙 美空 絵里花 優衣 良太 愛	中島 真由 渡谷 望未 古谷 涼子 本杉 斗真也 相坂 亮 内藤 薫 齋藤 賢一 齊藤 賢里 飛田 奈海 太田 孝紀 田北 真夕 平岩 優美香 安田 成基 織袋 成らの 一原 枝里花 尾形 祥文 小澤 彰永 熊谷 将哉 酒井 優衣 日高 壮磨 三浦 智也 森田 夏実 山際 竣 鈴木 望生 美濃部 遊 本杉 瑞季 安井 健一 三村 絵里子 松尾 彩香 ほなみ 藤村 穂純 大塚 美和 井上 佳奈 樹 奈 石川 梨奈 大西 亜海 大野 裕也 熊切 裕也 桜井 史男 又木 穂菜美 森田 遥加 牛山 綾夏 安達 雄祐 志村 江梨 島山 拓也 小林 電登 和直 直人 大出 亮 武田 翔太 富山YMCA 扇谷 美菜 西谷 望祐 松原 瑞季	宮口 侑紀 桑原 粽子 小金澤 真葉 田中 康平 名古屋YMCA 松脇 優希 兼子 梓 塚本 早紀 井畑 美梨 中立 勇一 松下 真夕 神原 崇志 中根 風美 鳥生 莉緒 鈴木 麻友 河合 皓太 大野 安太郎 鈴木 裕美 下田 杏純 滋賀YMCA 中口 喬碩 柴野 拓人 竹内 優 久永 遼 初田 美紀 福岡 淳史 堀部 夏未 田村 優希 浅田 恒輝 益田 恒輝 木下 愛実 藤井 聡美 木村 日香里 青木 黎佳 明田 麻希 石川 はるか 石川 奏子 今道 仙人 内山 亜佑美 大久保 佑亮 大西 航平 香川 由樹 上條 裕太 栗田 穂子 坂田 亜里紗 佐久間 茜 佐藤 沙優里 佐藤 亜耶 信貴 諒美 篠原 有佳 柴野 友佳 末吉 真里奈 鈴木 佑佳 高野 しの	高良 晏寿 谷口 夏海 豊村 悠 中島 瑛知 西野 美季 西村 夏子 西村 瑛花 濱岸 翔 平澤 佳奈 藤浪 真史 松田 真史 宮田 美美 森 あかり 森田 紗季 山内 彰子 山崎 健太 吉川 千晶 奈良YMCA 秋月 くるみ 田尻 明給 今井 彩乃 今井 佑佳 川崎 彩乃 平塚 真奈香 入田 美紀 安井 麻衣 福本 愛里 松井 寿帆 小堀 亜須美 吉田 昂平 久留 きくこ 希 希 川原 香介 清水 萌 米田 秀祐 梅田 咲 西田 和子 吉武 美保 犬飼 真理子 小池 貴子 藤木 飛鳥 津田 飛鳥 久保岡 祐 齋藤 千裕 中川 美佳 浜崎 美美 織田 祐輔 佐藤 玲香 中川 彩加 川口 由貴 宮脇 朋子 西垣 理英 上野 由樹子 福田 陸	大阪YMCA 米本 陽香 福本 沙也加 川端 明日香 能條 未波 西澤 嶋 安田 萌 星 沙奈映 竹内 章乃 田口 真梨子 谷國 晴理佳 大西 梨加 小角 彩華 小角 真依 牧山 研治 多田 裕紀 三浦 葵 古藤 菜央 長岡 花菜子 本間 裕加里 石塚 理沙 木村 祐子 山口 ひかる 岩倉 菜葉 安川 那奈 柳辺 悠介 今西 正典 阿部 竜己 浜野 慎也 遠藤 太一 金巻 美鈴 黒島 里歩 黒田 晴香 北岡 朱音 平野 沙世 奥田 芳寛 野山 政吉 秋岡 奈美穂 川東 竜也 清水 里沙 早田 茂哉 木内 柚花 土田 美咲 坪井 梨世 星加 美奈 大野 慎太郎 岸本 裕子 三輪 恭聖 河本 康宏 宮本 美奈 中谷 早希 鹿野 大周 加藤 麗穂 多田 瑞穂	西川 千晶 坂口 真穂 橋本 理沙 末永 祐利 須藤 啓太 須藤 可那子 桐井 佑梨子 竹内 隆仁 大谷 綾子 堀口 景汰 佐藤 明日香 刀堀 愛子 和田 千夏 問久 桃奈 熊野 世璃菜 小嶋 莉奈 上村 紗央里 梶 真子 西川 航平 西野 翔吉 平野 建吉 森田 翔香 和歌山YMCA 菊田 果那 奈津希 朱 森本 彩日 榎野 伊美 伊東 真季 久保 直人 遠藤 航平 市場 由依 渡辺 桃子 福岡 夢子 瀬川 美帆 古木 さとみ 小椋 万里花 細川 真依 面 千紜 坂井 ゆう 梅本 晴菜 九木 美怜 寺田 将光 油谷 祐奈 神戸YMCA 神 徹哉 酒井 洋貴 吉川 洋子 中塚 純子 荒川 俊太郎 井内 伸 石塚 尚子 岡田 弘 小井塚 美里	近藤 桃子 高岡 千晴 中島 寛輝 船橋 秀穂 丸谷 小百合 村上 健輔 村上 雪乃 山田 真維 山野 千穂 余田 奈緒 大屋 佳世 阪口 穂乃香 染谷 早紀 高田 晃子 旭 友理 居上 真梨子 受野 笑子 大原 萌 亀井 友理奈 河村 早紀子 北野 恵子 藤原 香香 宿南 美穂 谷 彩加 中澤 沙穂香 中原 茉友子 西垣 真梨那 寶香 眞香 信田 紗彌依 節田 香穂 森本 光美 吉田 勇介 小園 大樹 入川 佑真 鶴岡 俊介 笠井 瞬 金光 佑太 下垣 隆 奈良 航 森脇 元葉 草川 一 井上 功介 恵谷 さやか 大川 舞 久次米 ちひろ 小室 優美里 須川 美里 関家 影子 田井野 麻理 平 沙由里 土田 早希子 平田 千晶	松尾 住純 森 さくら 山本 奈々子 吉原 実希 渡辺 愛里 貴田 夢里 長澤 恵 姫路YMCA 青木 柚依 辰巳 舞 真次 理恵 吉識 なみ YMGASEとうち 石下 寛子 市田 万佐子 稲毛 沙織 井上 教子 入江 佳林 大久保 明記 大西 菜 岸原 笑美 志智 亜希恵 中嶋 千晶 福岡 理子 細川 恵里 山崎 翔大 玉置 啓太 森 大輝 新田 奈央 菅元 春花 三好 佑奈 星川 美華 北九州YMCA 宮崎 賢吾 大村 和也 笠置 宏平 大池 崇平 福岡YMCA 長迫 秀樹 安藤 百恵 大藤 さくら 末次 千奈美 芦谷 尚奈 高橋 朋江 野田 祐希 梅守 舞花 高浪 祐花 蒲池 瑞貴 下平 佳奈 牛原 千絵 中村 周 上山 吉祐 久保 莉沙	長崎YMCA 窪田 弘毅 松田 陸 工藤 靖央 鈴木 峻 長井 明白香 武藤 春佳 矢野 百合子 南 杏奈 未岡 藍 有澤 由衣子 小出 俊朗 矢野 未穂子 渡田 步花 松尾 春花 堤 里奈 松川 仁美 笹本 未來 熊本YMCA 宮村 紗友里 江上 優 磯山 美里 佐伯 亮 中西 清仁 阿部 大樹 齊藤 昂宏 河崎 真理 本田 りえ 川畑 友紀 田川 絵理奈 江 麟太郎 岩崎 諒 黒木 啓佑 岩崎 千佳 田尻 有香 今福 彩乃 山田 紗由里 岩本 海 比屋定 明子 松本 法子 本村 愛香 太田 瑞穂 上土井 唯 安達 諒一 工藤 美帆 山崎 未希子 以上、574人
--	--	--	--	--	---	--	---	--	---	--	---

NEWS 各地の動きをご紹介します。

●新しい世代とともに築く東北アジアの平和 — 第5回日中韓YMCAピースフォーラム

東北アジアの平和を築くため、日本、中国、韓国の3カ国持ち回りで行われてきた日中韓ピースフォーラム。日本開催2回目となる第5回は、1月21~23日に広島で行われました。今回は、これまでの4回の成果を踏まえ、初めて3カ国のユースが参加し、それぞれ中国から14人(うちユース5人)、韓国から16人(うちユース6人)、そして日本から31人(うちユース15人)が参加しました。

22日、開会礼拝ではスティーブン・リーパー氏より、YMCAが平和を創り出すことの意義についてメッセージをいただきました。その後、ユースとシニアスタッフの二手に分かかれ、ユース達は午前中に平和記念資料館を見学、午後には原爆被爆者の女性の話を聞き、日本語での話を、韓国語ができるスタッフや広島在住の中国人ボランティアがそれぞれの言語に訳しました。中でも「原爆を投下したアメリカではなく、原爆や戦争そのものを憎む」という言葉には心を打たれました。平和記念公園では原爆死没者慰霊碑、動員学徒慰霊塔、原爆の子の像、韓国人原爆犠牲者慰霊碑を巡り、原爆ドームの前では胎内被爆された方が被爆者手帳を手に、お母さまが被爆された状況等を英語で話してくださいました。

夕方、広島女学院大学講師で世界YMCA同盟常務委員のコートニー・ローレンス氏をリソースパーソンとし、平和学における「消極的平和(戦争がない状態)と積極的平和(戦争だけでなく貧困や格差等もない状態)」、メディア・リテラシーについて学び、考え、話し合う時間をもちました。

翌23日には、ユース全員であらためてアイスブレイクや自己紹介を行った後、ユースが参加しやすい今後のピースフォーラムに向けて次のような意見が出されました。

「歴史(過去)のみならず、3カ国の現在の状況や未来についても考えていきたい」
「各国でどのように歴史が学ばれているのか、シェアしたい」
「実際に会って交流することで、平和が築かれると思った」
「被爆者の方とコートニーさんとおしゃった“これらの平和は私達ユースにかかっている”という言葉を強く心に留めて、活動していきたい」

会の最後、シニアスタッフと合同で行われた全体会では、今後のYMCAにおけるユースを中心とした平和巡礼(戦争や平和に関連する土地や史跡を訪ねる旅)の在り方について

協議されました。その結果、2015年のピースフォーラムが中国・南京で開催されること、3カ国のYMCAで「平和の鐘」を贈り合い、共に祈りを合わせること、「日中韓共同の平和の祈り」を採択すること、以上3点が決議されました。
(日本YMCA同盟 永岡 美咲)



コートニー・ローレンス氏(左奥)による平和学とメディア・リテラシーのセッション。日本・中国・韓国のユース達が真剣に語り合う